

橋 梁 定 期 点 検 調 書

橋りょう番号 0

橋りょう名 _____

路 線 名 _____

所 在 地 _____

橋梁定期点検調書その1

諸元, 総合点検結果

橋梁番号	ワガナ	架設年(西暦)	橋長 - 径間数 - 桁種	事務所名	点検者	点検日
	名称	1900		所在地	路線名	

交差区分 名称	上部工型式	調査区分数	積雪寒冷地	備考(補修履歴等)	詳細調査履歴
橋梁幅員	下部工 形式	床版支間	凍結防止剤散布		
自動車交通量		A1橋台	海岸からの距離		
うち大型車交通量		A2橋台	鋼橋塗装系		
緊急輸送道路	橋脚	伸縮装置	橋面防水処理	緯度	経度
	基礎形式	高欄種別		35.45678	134.12345
		点検方法			

劣化・損傷部位	要素番号	損傷度	劣化・損傷内容	損傷写真 番号	性能の推定に用いる指標	想定する状況の性能の推定			
						活荷重	地震	豪雨・出水	その他
上部構造	コンクリート床版	①左側端張出し							
		②左側歩道下							
		③車道下							
		④右側歩道下							
		⑤右側端張出し							
	主 桁	①左側端耳桁							
②左側歩道下									
③車道下									
④右側歩道下									
⑤右側端耳桁									
横桁・縦桁等	⑥								
下部構造	橋 台	A1							
		A2							
	橋 脚 ()	P1							
		P2							
		P3							
		P4							
		P5							
基 礎	橋台・橋脚とも								
上下部接続部	支承本体(アンカーボルト)								
その他構造 (フェールセーフ)	落橋防止装置(鋼製部)								
	〃(Co部), 変位制限装置等								
その他構造	伸縮装置								
路上部	舗 装								
	排水桝・排水管								
	点検施設								
	地 覆								
	鋼製高欄・防護柵(ガードレール)								
	コンクリート高欄(壁式)								

性能の推定(橋全体として)				
健全性の診断区分 (主たる変状要因)				

定期点検調書その1-1 諸元・点検結果のまとめ

	構成部材	部材群毎の性能の推定に用いる指標を決定した技術的評価	参考写真	損傷の種類・位置・状態	推定される変状要因	進行の可能性及び構造安全性の推定	道路利用者への影響・第三者被害の可能性	措置の必要性・緊急性
定期点検調査その1-2 総合点検結果	上部構造	コンクリート床版						
		主 桁						
		横桁・縦桁等						
	下部構造	橋 台						
		橋 脚						
		基 礎						
	上下部接続部	支承本体						
	その他構造	落橋防止装置 変位制限装置等						
		伸縮装置						
	路上部							

所見	
----	--

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種	事務所名	:	■点検日	
0			所在地			
定期点検調書その2 橋梁一般図 #1/1	<p data-bbox="118 293 683 327">橋梁一般図 (位置図, 平面図, 側面図, 断面図等)</p> <p data-bbox="118 327 577 359">※径間が複数ある場合は径間番号をつけること</p> <p data-bbox="118 359 533 391">※既存の図面等がない場合は概略図でよい</p>					1
	This area is intentionally left blank for the drawing content					

橋梁番号・名称		架設年(西暦)	橋長 径間数 桁種	事務所名	:	■点検日	
0				所在地		路線名	

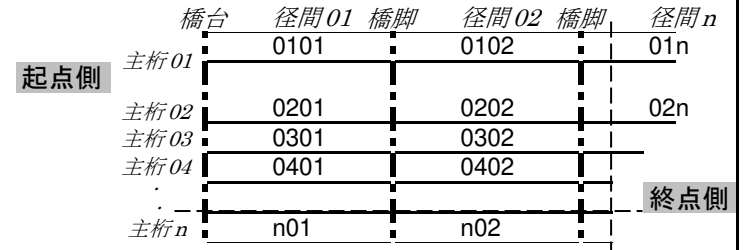
定期点検調書その3

点検模式図

1/1

主桁	
床版	

- ※ 床版、主桁とも要素細分を一般図等を用いて記録する。
- ※ 床版、主桁とも"通り"の要素細分を 終点側に向かって左から主桁(床版)01, 02, 03...主桁(床版)nとする。
- ※ 多径間の場合は"径間"ごとの要素細分をし、起点側から主桁(床版)01, 02, 03...主桁(床版)nとする。
- ※ 個別の要素を特定する場合、"通り・径間"の順番を続けて並べた 4ケタの要素細分"○○○○"で表現する。下図参照



※ 一般的な桁橋の床版は n+1 までの数字になる。

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種	事務所名	■点検日	
0			所在地		
定期点検調書その4 現地状況写真 # 1/2	起点側→ 終点側	1	終点側→ 起点側	2	
	上流→ 下流	3	下流→ 上流	4	

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種	事務所名	■点検日	
0			所在地		
定期点検調書その4 現地状況写真 # 2/2	下部工(起点側)	5	下部工(終点側)	6	
	床版(下側から)	7	支承等	8	

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種	事務所名	:	■点検日
0			所在地		

定期点検調書その5 損傷図・変状位置図 # 1/1	変状位置図	1
------------------------------------	-------	---

橋梁番号・名称		架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種		事務所名		■点検日	
0				所在地			
定期点検調書その6 劣化・損傷状況写真 # 1/1	写番 1:	水分供給の有無		写番 2:	水分供給の有無		
	変状状況:	損傷進行性の有無		変状状況:	損傷進行性の有無		
	損傷度:	損傷度判定理由:		損傷度:	損傷度判定理由:		
	※写番の後は部材名+要素 (番号, 細分)等				※写番の後は部材名+要素 (番号, 細分)等		
写番 3:	水分供給の有無		写番 4:	水分供給の有無			
変状状況:	損傷進行性の有無		変状状況:	損傷進行性の有無			
損傷度:	損傷度判定理由:		損傷度:	損傷度判定理由:			
※写番の後は部材名+要素 (番号, 細分)等				※写番の後は部材名+要素 (番号, 細分)等			

■ 架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種						■ 点検日			
項目	単位	概算数量	摘要(精度)			適用部材・工法	単位	算出数量	摘要(算定式)
			資料	図測	推定				
定期点検調査 その7 概算数量 #1/1	主桁本数	本				①床版上面(床版防水, 上面増厚)	m ²	0.0	(B-0.5×2)×L
	コンクリート主桁高	m				①床版下面(炭素繊維接着, 鋼板接着, 断面修復)	m ²	0.0	床版支間×L×(F-1)×α
	コンクリート主桁下幅	m				①鋼主桁, 横桁, 縦桁等(再塗装)		0	鋼橋塗装面積
	コンクリート横桁本数	本				①Co. 主桁(表面塗装, 断面修復, 電気防食)	m ²	0.0	(主桁高×2+下幅)×L×N×α
	コンクリート横桁長(平均)	m				①Co. 横桁()	m ²	0.0	()×横桁長×本数×α
	鋼橋塗装面積	m ²							
	A1橋台高(フーチング除く)	m				②A1橋台(表面塗装, 断面修復, ひびわれ補修, 含浸材塗布, 鋼板接着等)	m ²	0.0	A1H×(B-0.5×2)×α
	A2橋台高()	m							
						③A2橋台()	m ²	0.0	A2H×(B-0.5×2)×α
	P1コンクリート橋脚高()	m				④ ₋₁ P1コンクリート橋脚()	m ²	0.0	P1H×(W+T)×2×α
	P2コンクリート橋脚高()	m				④ ₋₂ P2コンクリート橋脚()	m ²	0.0	P2H×(W+T)×2×α
	P3コンクリート橋脚高()	m				④ ₋₃ P3コンクリート橋脚()	m ²	0.0	P3H×(W+T)×2×α
	P4コンクリート橋脚高()	m				④ ₋₄ P4コンクリート橋脚()	m ²	0.0	P4H×(W+T)×2×α
	P5コンクリート橋脚高()	m				④ ₋₅ P5コンクリート橋脚()	m ²	0.0	P5H×(W+T)×2×α
	P6コンクリート橋脚高()	m				④ ₋₆ P6コンクリート橋脚()	m ²	0.0	P6H×(W+T)×2×α
	コンクリート橋脚幅(加重平均)	m				⑤支承(取替え)	基	0	支承基数
	コンクリート橋脚厚	m				⑥舗装(打替え)	m ²	0.0	(B-0.5×2)×L
	鋼製橋脚塗装面積	m ²				⑦伸縮装置(取替え)	m	-1.0	(B-0.5×2)×(径間数+1)
						⑧地覆(表面塗装, 断面修復, ひびわれ補修等)	m ²	0.0	0.5×6×L×α
	鋼製高欄塗装面積(要塗装のとき"1")	m ²				⑧鋼製高欄(再塗装ほか補修)	m	0	L×2
	コンクリート高欄高	m				⑧コンクリート高欄(取替え)	m	0.0	L×2
	支承基数(ベタの場合は面積:m ²)	基・m ²				⑧ガードレール防護柵(取替え)	m	0.0	L×2
	落橋防止装置	基							
						①全面吊り足場	m ²	0.0	B×L
						②, ③橋台枠組足場(合計)	掛m ²	0.0	AnH×(B+0.5×2)
	補修橋長(諸元の橋長と不一致のとき)	m				④橋脚枠組足場(合計)	掛m ²	0.0	PxH×(W+T+2.0)×2×構成数
補修幅員(諸元の幅員と不一致のとき)	m								
					○詳細調査, 補修実施設計	式	1	あわせて1式とする	

※ 計算式の記号は L:橋長, B:全幅員, F:床版通り数, N:主桁通り数, AnH:An橋台高, PxH:Px橋脚高, W:橋脚幅, T:橋脚厚とする。
αは補修率(面補修のとき:1.0, 厚さ補修のとき:厚さ)を示す。

橋梁番号・名称		■ 架設年(西暦) 橋長 径間数 桁種					■ 点検日			
0		■								
定期点検調査その8 補修履歴・補修後の変状発生と時期 # 1/1	番号	補修時期(西暦)	目的・対策要因	補修部材	補修工法	補修内容・数量	表面被覆材の変状発生・時期		断面修復材の変状発生・時期	
							はくり	はらみだし	変色・劣化	変形・欠損
	最新1		鋼橋の再塗装	主桁, 横桁等						
	最新2		舗装の更新	路面						
	最新3		伸縮装置の取替え							
	最新4		支承の取替え							
	最新5		高欄・防護柵の取替え							
	最新6									
	最新7									
	最新8									
	最新9									
最新10										

※ 補修後の変状は、無ければ“-”，あれば日付を記入する。

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長	径間数	桁種	事務所名	■点検日					
0						所在地	路線名					
点検項目			変状度(劣化・損傷度)						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	除外的 要因の 抹消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v				
参考調査 その1 上部工・ コンクリート 床版評価 #1/1	構成する 床版通り数	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	無 :+7	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56	無	せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ "	塩害	
		構造物への影響小		幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	幅=大, 間隔=密 :41				
		1方向 床版ひびわれ	P. 91	無 :1	ヘアークラック程度 :21	幅は0.1mm以下が主 :31	幅0.2mm以下が主 :41	幅0.2mm以上が主 :51				部分的な角落ち
		2方向(格子状)				間隔0.5m以上 :32	間隔0.5~0.2m :42	間隔0.2m、 幅0.2mm、角落ち有 :52				
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無 :1	剥離のみ生じている :21	鉄筋が露出してい :31 るが、腐食は軽微						
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無 :1	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混 入がある						
		変形・欠損	P. 117	無 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下はない	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である						
		補修・補強材の損傷	P. 86	無 :1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31						
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:+1 無	抜け落ち 変色 劣化	異常な音、振動 漏水 滞水	異常な たわみ	うき					
	構成する 床版通り数	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	無 :+7	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56	無	せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ "	塩害	
		構造物への影響小		幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	幅=大, 間隔=密 :41				
		1方向 床版ひびわれ	P. 91	無 :1	ヘアークラック程度 :21	幅は0.1mm以下が主 :31	幅0.2mm以下が主 :41	幅0.2mm以上が主 :51				部分的な角落ち
		2方向(格子状)				間隔0.5m以上 :32	間隔0.5~0.2m :42	間隔0.2m、 幅0.2mm、角落ち有 :52				
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無 :1	剥離のみ生じている :21	鉄筋が露出してい :31 るが、腐食は軽微						
漏水 遊離石灰 錆汁		P. 81	無 :1	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混 入がある							
変形・欠損		P. 117	無 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下はない	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
補修・補強材の損傷		P. 86	無 :1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31							
その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:+1 無	抜け落ち 変色 劣化	異常な音、振動 漏水 滞水	異常な たわみ	うき						

※その他著しいもの、
除外する劣化要因は

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		所在地		路線名		■点検日	
0													
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分				
参考調査 その2a 上部工・鋼主桁と横桁・縦桁等評価 #1/1		腐食	P. 42	:1 無	:21 深さ=小, 面積=小	:31 深さ=小, 面積=大	:41 深さ=大, 面積=小	:51 深さ=大, 面積=大					
		亀裂	P. 47	:1 無	:21 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		ゆるみ 脱落	P. 50	:1 無	:21 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない	:31 ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い							
	構成する 桁通り数	防食機能の劣化	P. 55	:1 無	:21 塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき :22 塗装> 防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 :23 メッキ> 局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生 :24 耐候性> 錆は 1~5mm程度で、粗い :25 耐候性> 錆は 5~25mm程度の鱗状	:31 塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 :33 メッキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 :34 耐候性> 錆は層状の剥離がある							
		定着部の異常	P. 109	:1 無	:21 定着部のコンクリー トのひびわれから錆汁 定着部に損傷	:31 定着部のコンクリー トが剥離 定着部に著しい損傷							
		補修・補強材 の損傷	P. 86	:1 無	:21 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		変形・欠損	P. 117	:1 無	:21 ・局所的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である							
		遊間の異常	P. 98	:1 無	:21 左右の遊間が 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	:31 遊間が異常に広い 継ぎ手の歯が完全に離れて いる又は桁とバレット、桁 同士が接触している							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:1 無	:1 破断 変色 劣化	異常な 音、振動	漏水 滞水	異常な たわみ					

※その他著しいもの、
除外する劣化要因は
複数選択可とする。

無

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長	径間数	桁種	事務所名	■点検日						
0						所在地	路線名						
点検項目			変状度(劣化・損傷度)					最大変状要素細分	緊急処理の必要	健全性評価	所見, 補足(状況・要素細分)(補修等)	除外できる要因の抹消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv						v
参考調査 その2b 上部工・Co主桁と横桁、縦桁等評価 #1/1	構成する桁通り数	ひびわれ	P. 60	無	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=小, 間隔=密 :11 幅=中, 間隔=密 :12	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=粗 :37 幅=中, 間隔=密 :21 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ				塩害	
		剥離鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32						疲労 アル骨	
	漏水遊離石灰錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :21 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある :31							中性 凍害	
	定着部の異常	P. 109	無	定着部のCoのひびわれから錆汁、定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 :31 定着部に著しい損傷								
	補修・補強材の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる								
	変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である								
	遊間の異常	P. 98	無	左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている :21	遊間が異常に広い :31 継手の歯の完全な離れ又は桁とパレット、桁同士の接触								
	その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難	:-1	無	破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滯水	異常なたわみ	うき				
	構成する桁通り数	ひびわれ	P. 60	無	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=小, 間隔=密 :11 幅=中, 間隔=密 :12	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=粗 :37 幅=中, 間隔=密 :21 幅=大, 間隔=粗 :31	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=粗 :47 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ				塩害	
		剥離鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 :31 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32						疲労 アル骨	
		漏水遊離石灰錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない :21 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある :31						中性 凍害	
		定着部の異常	P. 109	無	定着部のCoのひびわれから錆汁、定着部に損傷 :21	定着部のコンクリートが剥離 :31 定着部に著しい損傷							
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる							
		変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
遊間の異常		P. 98	無	左右の遊間が極端に異なる又は遊間が直角方向にずれている :21	遊間が異常に広い :31 継手の歯の完全な離れ又は桁とパレット、桁同士の接触								
その他著しいもの(損傷度iiiのもの)		目視困難	:-1	無	破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滯水	異常なたわみ	うき				

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長 径間数 桁種	事務所名	■点検日							
0				所在地	路線名							
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)					緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v				
参考調査その3 下部工・コンクリート橋台 #1/1	① A1橋台 鉄筋の有無	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	無 : 1	幅=小, 間隔=粗 : 26 幅=中, 間隔=粗 : 21	幅=小, 間隔=密 : 36 幅=中, 間隔=粗 : 37	幅=中, 間隔=密 : 46 幅=大, 間隔=粗 : 47	幅=大, 間隔=密 : 56 せん断ひびわれ : 57 幅0.3mm以上の曲げ //	無			塩害 疲労 アル骨 中性 凍害
		構造物への影響小		幅=小, 間隔=粗 : 11 幅=小, 間隔=密 : 12	幅=中, 間隔=粗 : 21 幅=中, 間隔=密 : 22	幅=中, 間隔=粗 : 37 幅=大, 間隔=粗 : 31	幅=大, 間隔=粗 : 47 幅=大, 間隔=密 : 41					
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出してい るが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、 腐食が著しい						
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない	ひびわれから 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混入 がある						
		定着部の異常	P. 109	無	定着部のコンクリート のひびわれから錆汁 定着部に損傷	定着部のコンクリート が剥離 定着部に著しい損傷						
		変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である						
		補修・補強材 の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる						
		その他著しいもの (損傷度 iiiのもの)	目視 困難	:-1 無	破断 変色 劣化	異常な 音, 振動	漏水 滞水	異常な たわみ うき				
	② A2橋台 鉄筋の有無	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	無 : 1	幅=小, 間隔=粗 : 26 幅=中, 間隔=粗 : 21	幅=小, 間隔=密 : 36 幅=中, 間隔=粗 : 37	幅=中, 間隔=密 : 46 幅=大, 間隔=粗 : 47	幅=大, 間隔=密 : 56 せん断ひびわれ : 57 幅0.3mm以上の曲げ //	無			塩害 疲労 アル骨 中性 凍害
		構造物への影響小		幅=小, 間隔=粗 : 11 幅=小, 間隔=密 : 12	幅=中, 間隔=粗 : 21 幅=中, 間隔=密 : 22	幅=中, 間隔=粗 : 37 幅=大, 間隔=粗 : 31	幅=大, 間隔=粗 : 47 幅=大, 間隔=密 : 41					
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出してい るが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、 腐食が著しい						
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない	ひびわれから 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混入 がある						
		定着部の異常	P. 109	無	定着部のコンクリート のひびわれから錆汁 定着部に損傷	定着部のコンクリート が剥離 定着部に著しい損傷						
		変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である						
		補修・補強材 の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる						
		その他著しいもの (損傷度 iiiのもの)	目視 困難	:-1 無	破断 変色 劣化	異常な 音, 振動	漏水 滞水	異常な たわみ うき				

※その他著しいもの、
除外する劣化要因は
複数選択可とする。

※その他著しいもの、
除外する劣化要因は
複数選択可とする。

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		所在地		路線名		点検日	
0													
点検項目			変状度 (劣化・損傷度)					最大変状要素細分	緊急処理の必要	健全性評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	除外できる要因の抹消	
□	要素	参照	i	ii	iii	iv	v						
参考調書 その4a 下部工・コンクリート橋脚評価 # 1/1	ひびわれ	P. 60	無	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=大, 間隔=粗 :17	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=密 :31 幅=大, 間隔=密 :26	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ //		無		塩害 疲労 アル骨 中性 凍害		
	剥離 鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、腐食が著しい								
	漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある								
	定着部の異常	P. 109	無	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁定着部に損傷	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷								
	変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								
	補修・補強材の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる								
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難	無	破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滯水	異常なたわみ	うき					
	ひびわれ	P. 60	無	幅=小, 間隔=粗 :26 幅=中, 間隔=粗 :21 幅=大, 間隔=粗 :17	幅=小, 間隔=密 :36 幅=中, 間隔=密 :31 幅=大, 間隔=密 :26	幅=中, 間隔=密 :46 幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :56 せん断ひびわれ :57 幅0.3mm以上の曲げ //						
	剥離 鉄筋露出	P. 77	無	剥離のみ生じている	鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、腐食が著しい								
	漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない	ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある								
	定着部の異常	P. 109	無	定着部のコンクリートのひびわれから錆汁定着部に損傷	定着部のコンクリートが剥離 定着部に著しい損傷								
	変形・欠損	P. 117	無	・局部的に変形、欠損 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 ・著しい機能低下である								
	補修・補強材の損傷	P. 86	無	軽微な損傷が見られる	著しい損傷が見られる								
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難	無	破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滯水	異常なたわみ	うき					

※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		所在地		路線名		■点検日	
0													
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)						最大変状要素細分	緊急処理の必要	健全性評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v					
参考調査 その4b 下部工・鋼製橋脚評価		腐食	P. 42	:1	深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積= :41	深さ=大, 面積= :51		無			
		亀裂	P. 47	無	:1 線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		ゆるみ脱落	P. 50	無	:1 ボルトのゆるみ・ :21	:31 ボルトのゆるみ・ :31							
		防食機能の劣化	P. 55	無	:1 塗装> 防食皮膜が :21 変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メッキ> 局所的に防食 :23 皮膜が劣化し点錆が発生 耐候性> :24 錆は 1~5mm程度で、粗い 耐候性> :25 錆は 5~25mm程度の鱗状	:31 塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ> 防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生 :34 耐候性> 錆は層状の剥離がある							
		変形・欠損	P. 117	無	:1 ・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	:1 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難	:1 困難	:1 破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滯水	異常なたわみ					
									※その他著しいもの、除外する劣化要因は複数選択可とする。				
	#1/1		腐食	P. 42	:1	深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積= :41	深さ=大, 面積= :51				
		亀裂	P. 47	無	:1 線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	:31 線状の亀裂が生じている							
		ゆるみ脱落	P. 50	無	:1 ボルトのゆるみ・ :21	:31 ボルトのゆるみ・ :31							
		防食機能の劣化	P. 55	無	:1 塗装> 防食皮膜が :21 変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メッキ> 局所的に防食 :23 皮膜が劣化し点錆が発生 耐候性> :24 錆は 1~5mm程度で、粗い 耐候性> :25 錆は 5~25mm程度の鱗状	:31 塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 メッキ> 防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生 :34 耐候性> 錆は層状の剥離がある							
		変形・欠損	P. 117	無	:1 ・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	:31 ・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である							
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	:1 軽微な損傷が見られる	:31 著しい損傷が見られる							
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視困難	:1 困難	:1 破断 変色 劣化	異常な音、振動	漏水 滯水	異常なたわみ					

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長 径間数 桁種	事務所名	■点検日							
0				所在地	路線名							
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)					緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v				
参考調書 その5 支承部評価# 1/2	① 支承 アンカーボルト含 む 材質	腐食	P. 42	:1		深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積=小 :41	深さ=大, 面積=大 :51	無		
		亀裂	P. 47	無	:1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている :31					
		ゆるみ 脱落	P. 50	無	:1	ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない :21	ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い :31					
		遊間の異常	P. 98	無	:1	左右の遊間が 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている :21	遊間が異常に広い 継ぎ手の歯が完全に離れて いる又は桁とバラスト、桁 同士が接触している :31					
		変形・欠損	P. 117	無	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である					
		補修・補強材 の損傷	P. 86	無	:1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31					
		防食機能の劣化	P. 55	無	:1	塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき 部分的剥離し下塗が露出 :22	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 :31					
		メッキ> 局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生 :23	メッキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 :33									
	沈下・移動・傾斜	P. 120	無	:1		支点が沈下している :31 下部工が移動・傾斜			※その他著しいもの、 除外する劣化要因は 複数選択可とする。			
その他著しいもの (損傷度 iii のもの)	目視 困難	:1	無	破断	変色 劣化	異常な 音、振動	漏水 滞水	土砂 詰り	支承の 機能障害			

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長 径間数 桁種	事務所名	■点検日								
0				所在地	路線名								
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)					緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	除 外 できる 要因の 抹 消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v					最大変状 要素細分
参考 調査	② 落橋防止 装置 (鋼製部)	腐食	P. 42	:1		深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積=小 :41	深さ=大, 面積=大 :51		無		
		亀裂	P. 47	無	:1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている :31						
		ゆるみ 脱落	P. 50	無	:1	ボルトのゆるみ・ :21 脱落の箇所が少ない	ボルトのゆるみ・ :31 脱落の箇所が多い						
		変形・欠損	P. 117	無	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である						
		防食機能の劣化	P. 55	無	:1	塗装> 防食皮膜が :21 変色または局部的なうき 塗装> 防食皮膜が :22 部分的剥離し下塗が露出 メッキ> 局所的に防食 :23 皮膜が劣化し点錆が発生	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 :31 メッキ> 防食皮膜の :33 劣化範囲が広く点錆が発生						
		遊間の異常	P. 98	無	:1	左右の遊間が :21 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い :31 継ぎ手の歯が完全に離れて いる又は桁とバラット、桁 同士が接触している						
		その他著しいもの (損傷度 iiiのもの)	目視 : 困難	: 無	: 無	破断	変色 劣化	異常な 音、振動	漏水 滞水	異常な たわみ			
その 5 支 承 部 評 価 # 2/2	③ 落橋防止 装置 (Co部) 沓座拡幅部 変位制限 装置等も 含む	ひびわれ	P. 60	無	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56		無		塩害 疲労 アル骨 中性 凍害	
		構造物への影響大		:1	幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	せん断ひびわれ、 :57				
		構造物への影響小		:1	幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41	幅0.3mm以上の曲げ //				
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無	:1	剥離のみ生じている :21	鉄筋が露出してい :31 るが、腐食は軽微						
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	:1	漏水が生じているが、 :21 錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じて :22 いるが、錆汁はない	ひびわれから :31 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混入が ある						
		遊間の異常	P. 98	無	:1	左右の遊間が :21 極端に異なる又は遊間が 直角方向にずれている	遊間が異常に広い :31 継ぎ手の歯が完全に離れて いる又は桁とバラット、桁 同士が接触している						
		変形・欠損	P. 117	無	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である						
その他著しいもの (損傷度 iiiのもの)	目視 : 困難	: 無	: 無	破断	変色 劣化	異常な 音、振動	漏水 滞水	異常な たわみ	うき 土砂 詰り				

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		所在地		路線名		■点検日					
0																	
点検項目				変状度(劣化・損傷度)						最大変状要素細分	緊急処理の必要性	健全性評価	所見, 補足(状況・要素細分)(補修等)	除ける要因の抹消			
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v									
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難	:-1 無	:-1 無	破断	変色劣化	異常な音, 振動	-	漏水滞水	土砂詰り						
参考調査	① 地覆 (コンクリート)	構造物への影響大 ひびわれ	P. 60	無	:-1 幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56							塩害	
		構造物への影響小			幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	幅=大, 間隔=粗 :57							疲労	
		剥離 鉄筋露出	P. 77	無	:-1 幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41	幅=大, 間隔=密 :41	せん断ひびわれ, :57 幅0.3mm以上の曲げ //							アル骨
		変形・欠損	P. 117	無	:-1	:-1 ・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	:-1 鉄筋が露出しているが、腐食は軽微 鉄筋が露出し、腐食が著しい :32	:-1 鉄筋が露出し、腐食が著しい :31									中性
		漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	:-1	:-1 漏水が生じているが、錆汁や遊離石灰はない 遊離石灰が生じているが、錆汁はない :22	:-1 ひびわれから著しい漏水や遊離石灰または泥、錆び汁の混入がある :31	:-1									凍害
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	:-1	:-1 軽微な損傷が見られる	:-1 著しい損傷が見られる	:-1									
		その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難	:-1 無	:-1 無	破断	変色劣化	異常な音, 振動	-	漏水滞水	異常なたわみ	うき					
その7 路上部2・地覆, 評価#1/1	① 地覆 (鋼製)	腐食	P. 42	:-1	:-1 深さ=小, 面積=小	:-1 深さ=小, 面積=大	:-1 深さ=小, 面積=大	:-1 深さ=大, 面積=小	:-1 深さ=大, 面積=大								
		亀裂	P. 47	無	:-1 線状でない亀裂 線状でも短く、少数。	:-1 線状の亀裂が生じている	:-1										
		ゆるみ 脱落	P. 50	無	:-1 ボルトのゆるみ・脱落の箇所が少ない	:-1 ボルトのゆるみ・脱落の箇所が多い	:-1										
		変形・欠損	P. 117	無	:-1 ・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	:-1 ・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である	:-1										
		補修・補強材の損傷	P. 86	無	:-1 軽微な損傷が見られる	:-1 著しい損傷が見られる	:-1										
		防食機能の劣化	P. 55	無	:-1 塗装> 防食皮膜が変色または局所的なうき 塗装> 防食皮膜が部分的剥離し下塗が露出 メッキ> 局所的に防食皮膜が劣化し点錆が発生	:-1 塗装> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 メッキ> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生	:-1 塗装> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生 メッキ> 防食皮膜の劣化範囲が広く点錆が発生	:-1									
その他著しいもの(損傷度iiiのもの)	目視困難	:-1 無	:-1 無	破断	変色劣化	異常な音, 振動	-	漏水滞水	異常なたわみ								

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長 径間数 桁種	事務所名	■点検日							
0				所在地	路線名							
点検項目				変状度(劣化・損傷度)					緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	外 で 可 能 な 要 因 の 抹 消
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v				
参考調書 その7 路上部3・高欄 評価#1/1	② 鋼製高欄 防護柵 (ガードレール)	腐食	P. 42	:1		深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積=小 :41	深さ=大, 面積=大 :51	無		
		亀裂	P. 47	無	:1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている :31					
		ゆるみ 脱落	P. 50	無	:1	ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない :21	ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い :31					
		変形・欠損	P. 117	無	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である					
		補修・補強材 の損傷	P. 86	無	:1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31					
		防食機能の劣化	P. 55	無	:1	塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき :21	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 :31					
						塗装> 防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 :22	メッキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 :33					
		その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:1	無	破断	変色 劣化	異常な 音, 振動	漏水 滞水			
③ Co高欄 (壁式)	構造物への影響大 ひびわれ 構造物への影響小	P. 60	無	:1	幅=小, 間隔=粗 :26	幅=小, 間隔=密 :36	幅=中, 間隔=密 :46	幅=大, 間隔=密 :56	無		塩害 疲労 アル骨 中性 凍害	
			幅=小, 間隔=粗 :11	幅=中, 間隔=粗 :21	幅=中, 間隔=粗 :37	幅=大, 間隔=粗 :47	せん断ひびわれ, :57 幅0.3mm以上の曲げ //					
			幅=小, 間隔=密 :12	幅=中, 間隔=密 :22	幅=大, 間隔=粗 :31	幅=大, 間隔=密 :41						
	剥離 鉄筋露出	P. 77	無	:1	剥離のみ生じている :21	鉄筋が露出してい るが、腐食は軽微 :31						
	漏水 遊離石灰 錆汁	P. 81	無	:1	漏水が生じているが、 錆汁や遊離石灰はない :21	ひびわれから 著しい漏水や遊離石灰 または泥、錆び汁の混入 がある :31						
	遊離石灰が生じて いるが、錆汁はない :22											
	変形・欠損	P. 117	無	:1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である						
	補修・補強材の損傷	P. 86	無	:1	軽微な損傷が見られる :21	著しい損傷が見られる :31						
その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難	:1	無	破断	変色 劣化	異常な 音, 振動	漏水 滞水	異常な たわみ うき				

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)	橋長	径間数	桁種	事務所名	■点検日							
0						所在地	路線名							
点検項目				変状度(劣化・損傷度)						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	除外 できる 要因の 消	
□	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分					
参考 調査	点検施設	ゆるみ 脱落	P. 50	無 :1	ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が少ない :21	ボルトのゆるみ・ 脱落の箇所が多い :31				無				
		防食機能の劣化	P. 55	無 :1	塗装> 防食皮膜が 変色または局所的なうき 剥離 :21 塗装> 防食皮膜が 部分的剥離し下塗が露出 :22 メッキ> 局所的に防食 皮膜が劣化し点錆が発生 :23	塗装> 防食皮膜の劣化範囲が 広く点錆が発生 :31 メッキ> 防食皮膜の 劣化範囲が広く点錆が発生 :33								
	腐食	P. 42	無 :1	深さ=小, 面積=小 :21	深さ=小, 面積=大 :31	深さ=大, 面積=小 :41	深さ=大, 面積=大 :51							
	亀裂	P. 47	無 :1	線状でない亀裂 :21 線状でも短く、少数。	線状の亀裂が生じている :31									
	変形・欠損	P. 117	無 :1	・局部的に変形、欠損 :21 ・著しい機能低下は無い	・著しい変形、欠損 :31 ・著しい機能低下である									
	その他著しいもの (損傷度iiiのもの)	目視 困難 :1	無 :1	破断	変色 劣化	異常な 音, 振動	漏水 滞水	異常な たわみ	土砂 詰り					機能 障害

橋りょう番号・名称		架設年(西暦)		橋長 径間数 桁種		事務所名		:		■点検日			
0						所在地				路線名			
点検項目				変状度 (劣化・損傷度)						緊急 処理の 必要性	健全性 評価	所見, 補足 (状況・要素細分) (補修等)	除外 できる 要因の 消滅
<input type="checkbox"/>	要素	変状	参照	i	ii	iii	iv	v	最大変状 要素細分				